

Photogravure

Creeping Disease

新見やよい 川名 誠司
日本医科大学皮膚科学教室

Yayoi Niimi and Seiji Kawana
Department of Dermatology, Nippon Medical School



Fig. 1



Fig. 2

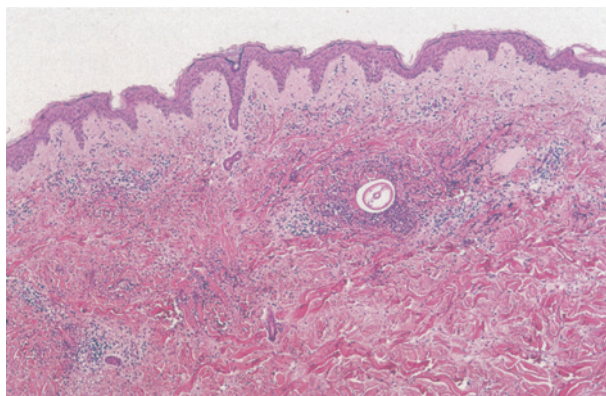


Fig. 3

解説 Creeping disease とは皮膚幼虫爬行症で、ウマバエ、ウシバエの幼虫、鉤虫、顎口虫、糞線虫、旋尾線虫、マンソン裂頭条虫などの仔虫の寄生で皮膚に生じる線状隆起性皮疹である。雷魚、ドジョウ、ヘビ、淡水魚などの生食により感染する。日本では雷魚やドジョウの生食で生じる顎口虫による creeping disease が多かったが、最近、ホタルイカの生食による旋尾線虫亜目 type X 幼虫による creeping disease の報告例が増加している。旋尾線虫亜目 type X 幼虫は、ホタルイカ、スルメイカ、ハタハタ、スケトウダラを中間宿主とし、これらを生食することで感染する。時に、腹痛、悪心、嘔吐、下痢、イレウスなどの腹部症状を伴う。診断および治療をかねて、皮疹の先端部を広めに切除し、連続切片や人工消化法により虫体を検出する。しかし、実際に切除標本中に虫体を確認できる症例は多くはない。最近、各種寄生虫に対する血清抗体の測定が補助診断として有用である。

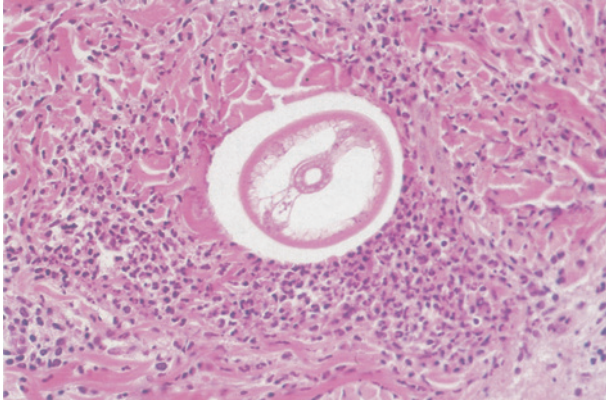


Fig. 4



Fig. 5



Fig. 6

Fig. 1 旋尾線虫亜目 type X 幼虫による creeping disease . 46 歳の男性で , 8 日前から腹部に線状皮疹が出現した . 皮疹出現の 5 日前に居酒屋でホタルイカを生食している .

Fig. 2 線状の皮疹は全長 25 cm におよび , 右腹部から左腹部にかけて横走り , さらに下腹部へと伸びている . 旋尾線虫の虫体は真皮の上 ~ 中層を爬行するので , 線状皮疹が細く , 表面に小水疱を形成するのが特徴である .

Fig. 3 真皮上 ~ 中層に虫体の断面を認め , 周囲に好中球浸潤を伴う .

Fig. 4 虫体の断面の特徴から旋尾線虫亜目 type X 幼虫が疑われた . ELISA 法で旋尾線虫亜目 type X 幼虫に対する血清抗体が陽性を示したことから , 同虫による creeping disease と診断した .

Fig. 5 61 歳の男性 . 腹部を中心にやや幅の広い線状の蛇行しながらのびる紅斑および褐色斑を認める . 線状皮疹の先端部を含め切除したが , 組織学的に虫体は確認できなかった .

Fig. 6 25 歳の男性 . 3 日前に腹痛が出現 . その後 , 左側腹部から背部を横切り , さらに右腹部へと拡大した線状の紅斑を主訴に来院した . 線状の紅斑は 2 時間で 5 cm 移動したという . 幅の広い線状の紅斑から顎口虫症を疑い , 線状皮疹の先端部を切除したが , 虫体は確認できなかった .